

材料工学専攻

I. 志望区分

志望区分	研究内容
1	耐食・耐摩耗材料、ポーラス材料、触媒、キラリテイ、自己組織化、材料物理化学
2	燃料電池材料、固体イオニクス、チタン製錬、レアメタル製錬、化学熱力学
3	構造材料、塑性変形機構、マイクロスケール力学特性、結晶欠陥、透過電子顕微鏡法
4	バルク・薄膜結晶成長、化合物半導体、太陽電池材料、光物性、量子計算科学
5	表面・界面物性、走査トンネル顕微鏡、原子レベル材料物性評価、ナノスケール元素分析
6	量子材料設計、セラミック材料、半導体材料、計算材料科学、エネルギー材料、電子分光
7	耐熱金属間化合物材料、先進電池材料、水素吸蔵・熱電変換材料、結晶格子欠陥、ナノ透過電子顕微鏡法
8	構造用金属材料、塑性加工、熱処理、ナノ・マイクロ組織制御、粒界・界面、機械的性質
9	凝固・結晶成長解析、凝固プロセス、電磁力プロセッシング、リアルタイムイメージング、材料組織解析
10	磁性物理学、磁性材料、強相関電子系、スピントロニクス、中性子散乱、核磁気共鳴
11	水溶液プロセス、イオン液体、材料電気化学、湿式非鉄製錬、電池材料、表面機能化
12	原子間力顕微鏡、熔融金属、界面電気化学、ナノトライボロジー、半導体表面プロセス

※ 志望区分と研究室の対応は、下記の教員・研究内容説明書を確認すること。

II. 募集人員

2025年度10月期入学：

材料工学専攻 若干名

2026年度4月期入学：

材料工学専攻 10名

※入学時期を2025年度10月期あるいは2026年度4月期のいずれかから選択すること。出願後は、入学時期の変更はできないので、事前に受入予定教員とよく相談のうえ入学時期を決定すること。インターネット出願システム上で、2025年度10月期入学と2026年度4月期入学のいずれかを選択すること。

III. 出願資格

募集要項「II-i 出願資格」参照

IV. 学力検査日程

8月6日(水)	9:30～ 口頭試問
---------	---------------

※試験場は吉田キャンパスである。

詳細は受験票送付時に通知する。

V. 入学試験詳細

[英語]

2022年8月1日以降に実施されたTOEFL (TOEFL-ITPなどの団体試験を除く)^{※1, ※2}、TOEIC L&R (TOEIC-IPなどの団体試験は不可) またはIELTSの成績により評価する。「英語を母語とする旨の宣誓書」が提出された場合、口頭試問において英語力の判定を行う。なお、TOEFL、TOEICまたはIELTSの成績もしくは「英語を母語とする旨の宣誓書」が提出されない場合は、別途、試験を実施することがあるので、受け入れ予定の教員に必ず出願前に相談すること。

※1 TOEFL iBT (Special) Home Edition, TOEFL ITP Plus for China の成績提出でも可とする。

※2 My Best スコアの利用を可とする。

[口頭試問]

これまでの研究および博士後期課程における研究計画についての 15 分の発表の後、その内容やそれらに関連した分野の学識について 10 分の試問を行う。発表はプロジェクターを用いて行う。発表スライドの事前提出については別途指示をする。

[合格者決定法]

各科目の配点は英語 100 点、口頭試問 400 点とする。英語と口頭試問のそれぞれについて、配点の 60%以上を取得した者を有資格者とし、その中から総得点の高い順に合格者を決定する。

VI. 出願要領

(1) 志望区分の申請

志望する区分を I. 志望区分より一つ選び、インターネット出願システムの志望情報入力画面で選択すること。本専攻出願にあたっては、あらかじめ志望区分の指導予定教員に必ず連絡を取ること。志望区分と研究室および担当教員の関係は、下記の教員・研究内容説明書および材料工学専攻のウェブサイトを確認すること。<https://www.ms.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

(2) 事前コンタクト

入学後の研究内容のマッチングを行うため、出願に先立って指導を希望する教員に連絡し、研究内容について相談すること。事前コンタクトは原則として出願前に行い、その方法（対面、電子メール、電話など）は指導希望教員の指示に従うこと。教員の連絡先は材料工学専攻のウェブサイトを確認すること。<https://www.ms.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

(3) 口頭試問の発表指導

口頭試問時に行う入学後の研究内容、研究計画等に関する発表について、指導希望教員が口頭試問の発表指導を行う場合がある。指導希望教員と相談のうえ口頭試問の発表指導を実施する場合は、原則として出願後から試験日の 1 週間前までに行います。

問合せ先・連絡先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 電話 075-383-3521

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛

E-mail : 090kckyomu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参照 <http://www.ms.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

別途提出書類（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）

英語を母国語としない受験者は、ETS から紙媒体で送付される TOEFL（「Test Taker Score Report」あるいは「Examinee Score Report」）の成績書（原本のみ可、コピー不可）、または TOEIC あるいは IELTS の成績証明書（原本のみ可、コピー不可）を、英語を母語とする受験者は「英語を母語とする旨の宣誓書」（様式 材工 D）を 2025 年 7 月 25 日（金）午後 5 時（必着）までに大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（材料工学専攻 入試担当）へ提出すること。ただし、TOEIC などから紙媒体の成績証明書が発行されない場合はデジタル公式認定証（Digital Official Score Certificate）を印刷したものの提出を認める。なお、TOEFL、TOEIC または IELTS の成績もしくは「英語を母語とする旨の宣誓書」を提出しない場合は、受け入れ予定の教員に必ず出願前に相談の上、その旨を連絡すること。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

博士後期課程入学後には 2 種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「材料工学専攻」

の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記のとおりである。

(a)連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）

(b)連携教育プログラム 高度工学コース（材料工学専攻）

いずれのプログラムを履修するかは、合格決定後、入学までの適切な時期に志望を調査したうえで、その志望と入試成績に応じて審査の後に決定される。また、教育プログラムの内容については、学生募集要項の X. 「博士後期課程入学後の教育プログラムについて」を参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について（高度工学コース）

材料工学では、地球の「資源」や「物質」を有効に活用し、人類、そして地球の未来に役立つ「材料」に変換するための基礎技術と基礎理論を科学し、環境調和を考慮して人間社会を維持、発展させることに貢献することを目指して、新しい材料の開発・設計・製造プロセスに関する先進の教育と研究を行っています。そのために本専攻では、材料プロセス工学、材料物性学、材料機能学の各分野で、電子・原子レベルの元素の結合状態や結晶構造に関する研究から、ナノスケールのクラスター構造、メゾスケールからマクロスケールでの材料組織、マクロスコピックな結晶粒や加工組織や集合組織まで材料に関わる先進の教育研究を推進し、我が国が抱える緊急かつ重要な課題である環境、エネルギー、資源などの問題に、材料科学的な独自の視点で思考し、課題を設定し解決することができる、高い能力を持った研究者・技術者を育成しています。

IX. その他

携行品

受験票、発表用 PC

教員・研究内容説明書

研究内容	区分
材料設計工学講座 材料設計工学分野 (1) 耐食・耐摩耗性能を有する多元系合金の湿式コーティング研究 (2) 陽極酸化による半導体材料表面への微細構造形成 (3) 合金や炭素からなる触媒の設計と表面処理への応用 (4) キラリティを有する金属ナノ材料の創製 (5) 金属や半導体の微細構造形成における自己組織化現象	第1
材料プロセス工学講座 表面処理工学分野 (1) 中温型燃料電池の実現に向けた固体電解質とその電極の探査 (2) リン酸塩における新しいプロトン伝導体の探索 (3) 高効率な新しいチタン製錬法の提案 (4) 材料の熱力学的解析と、それをベースにしたプロセス学 (5) 希土類、ニッケル、コバルトなどのレアメタルの製錬・リサイクルプロセス	第2
材料プロセス工学講座 物質情報工学分野 (1) 硬質結晶性材料の塑性変形機構 (2) 原子分解能走査透過電子顕微鏡法 (3) 硬質結晶性材料を強化相として含む構造用金属材料の塑性変形機構 (4) マイクロスケール機械試験法を用いた変形機構解析 (5) ハイ/ミディアム・エントロピー合金の欠陥構造と力学特性	第3
材料プロセス工学講座 ナノ構造学分野 (1) 多元系材料におけるバルク結晶成長 (2) 半導体材料における成膜プロセスの開発 (3) 化合物半導体における光物性 (4) 化合物太陽電池におけるデバイス構造の構築と高効率化 (5) 第一原理統計熱力学に基づく材料設計手法の開発	第4
先端材料物性学講座 (1) 走査トンネル顕微鏡による材料組織評価 (2) 表面・界面物性 (3) ナノスケール元素分析 (4) 新規ナノ計測手法の開発 (5) 走査トンネル顕微鏡を用いた表面反応機構の解明	第5

<p><u>材料物性学講座 量子材料学分野</u></p> <p>(1) 計算科学に基づいた新材料と機能の探索 (2) ワイドギャップ半導体の材料設計と開発 (3) 次世代エネルギー変換・貯蔵材料の設計と開発 (4) 第一原理計算からの熱統計力学計算手法の開発 (5) 第一原理計算に基づいた材料インフォマティクス</p>	第6
<p><u>材料物性学講座 結晶物性工学分野</u></p> <p>(1) 結晶欠陥、転位と力学特性 (2) 次世代耐熱構造用金属間化合物の変形機構 (3) 先進電池材料における固体イオニクス界面の微細構造と電池特性 (4) エキゾチック化合物の水素吸蔵、熱電変換機能 (5) 結晶欠陥のナノスケール電子顕微鏡法</p>	第7
<p><u>材料物性学講座 構造物性学分野</u></p> <p>(1) ナノ組織制御による強度と延性・靱性を両立させた構造用金属材料の実現 (2) 巨大ひずみ加工など新規プロセスによるバルクナノメタルの創製 (3) バルクナノメタルの相変態・析出・再結晶挙動と力学特性の解明 (4) ヘテロ構造金属材料の変形挙動およびその力学特性発現機構の解明 (5) 金属材料の水素脆性の解明</p>	第8
<p><u>先端材料機能学講座</u></p> <p>(1) 凝固・結晶成長機構の実証的解明と材料プロセスへの応用 (2) 外場を利用した材料プロセッシング原理の確立と組織制御への応用 (3) 放射光などを利用した材料構造・組織評価法の開発 (4) 非平衡複相材料における拡散相変態過程の解明と制御 (5) 軟X線領域におけるナノ構造評価手法の開発</p>	第9
<p><u>材料機能学講座 磁性物理学分野</u></p> <p>(1) 電子相関が強い系での新たな量子現象・新たな機能の探索 (2) フラストレート系・ランダム系・低次元磁性体の物理 (3) スピン流の新たな物理の開拓 (4) 希土類元素を含まない新たな磁性材料の開発 (5) 中性子散乱・核磁気共鳴・メスバウア分光等による微視的磁性評価</p>	第10
<p><u>材料機能学講座 材質制御学分野</u></p> <p>(1) 酸化還元反応ならびに酸-塩基反応を用いる水溶液系薄膜形成とその熱力学 (2) 自然順応型イオン液体を溶媒とする表面修飾ならびに機能化技術の研究 (3) 電解採取や電解精製をはじめとする湿式非鉄製錬技術の高度化と高効率化 (4) 次世代電池をめざした高容量金属負極材料の設計と開発 (5) 多孔質電極の作製とその利用における微小空間の電気化学</p>	第11
<p><u>材料機能学講座 機能構築学分野</u></p> <p>(1) 液中原子間力顕微鏡法の開発 (2) 熔融金属/固体界面の原子スケール物理化学 (3) 原子間力顕微鏡による界面電気化学 (4) 液中ナノトライボロジー (5) 半導体表面処理・微細加工技術の開発</p>	第12